実践報告資料①

北海道胆振東部地震　被災状況

1　被災時の環境

札幌市内のマンション４階に、一人暮らし。

発災時は、就寝中。ヘルパーさん一人が、そばにいた。夜間使用する人工呼吸器をその日は使用していなかった。

2　時系列に沿った被災状況

日時	状況や行動	当事者の気持ち	支援者の状況
2018(H30)年 ９月６日(木) 3:07	地震発生 自宅で就寝中。 夜間使用する鼻マスク式人工呼吸器は不使用だった。 家具が倒れたり壊れたりはしなかった。 ぬいぐるみが転がり、突っ張り棒がとれた。	同じじマンションの他の階の人はひどかったと聞いた。 家具の配置等によるものではと思う。	
2018(H30)年 ９月６日(木) 3:40	発災から 30 分後ぐらいに停電となった。 同時に断水もした。トイレの水も出なくなったが、同日の朝 8:30 頃まではトイレのタンクに水があり、流すことはできた。その時間以降、トイレの水も出なくなった。 停電後にエレベーターは停止した。 復旧したのは、9/9(日)だった。	とにかくトイレが心配で、食べるという考えが浮かばなかった。 ヘルパーさんが持って来てくれた食事を口にした。 エレベーターで一階まで降りることができなくなったため、避難所に行くことは考えられなかった。	停電になり災害に関する情報をテレビ等から得ることができなくなった。 神奈川県に住む弟さんが、テレビのニュースで流れる情報を電話で教えてくれた。 ヘルパーさんは、女性ばかりだった。 ヘルパーを派遣する事業所にも、男手はなかった。
９月６日(木) 9:00	ヘルパーの交代時間。 夜勤帯/日勤帯のヘルパーが、交代した。 近所に住む 24 時間人工呼吸器の使用が必要な友人の電源を確保しないといけないと思った。自身が保有する人工呼吸器のバッテリーを同知人に貸し出すことになり、同知人のヘルパーさんが、徒歩で借りに来られた。 携帯電話の電波が不通になった。 携帯電話のバッテリーが不足し利用できなくなった。	一番心配なことは、いざという時に脱出できないことだった。	何らかの手段を駆使して、ヘルパーさんは皆、時間通りに来てくれた。 徒歩圏内に知人の障がい者が 3 名住んでおり、そこでケアにあたるヘルパーさんが、時折様子を見に来てくれた。 訪問診療を受ける医療法人稲生会から安否確認の連絡が来た。札幌市北区保健福祉部保健福祉課職員からも連絡が来たが既に携帯電話が不通となり、十分な応対ができなかった

実践報告資料①

日時	状況や行動	当事者の気持ち	支援者の状況
９月７日(金) 日中	発災翌日 9/7(金)の夜頃まで、停電は続いた。停電が続いた間は、水も出なかった。 よってトイレも使えなかった。トイレが使えないために紙おむつを使って過ごした。 冷蔵庫に食べるものはあった。 電子レンジは、使えなかった。 幸いにも自宅はガスで調理ができたため、素麺を茹でる等調理はした。	断水が続きトイレが使用できないなかでお腹を壊したら大変なため、極力飲まず食わずで過ごした。 結果、排泄は一日一回程度だった。 災害発生が冬じゃなくて良かったと感じた。	自転車･タクシー･親に送ってもらうなどして、ヘルパーさんは皆来てくれた。 石狩市に住むヘルパーさんが、自宅からペットボトルに水を入れて運んでくれた。 石狩市に住むヘルパーさんが、自宅に本人のモバイルバッテリーを持ち帰り、充電をして来てくれた。
９月７日(金) 夜間	停電回復と同時に断水も回復した。 停電が復旧した後も、エレベーターは点検等が必要で利用できなかった。		
９月９日(日)	エレベーターが復旧した。		

３　災害時に備えた自助

○　札幌市では、2019(令和元)年 10 月から、在宅で人工呼吸器や酸素濃縮器など電気式の医療機器を使用する呼吸器機能障害のある方や難病患者などを対象にして、非常用電源装置等の購入に係る費用の助成「札幌市障がい者等災害対策用品購入費助成事業」の実施を開始した。同事業を利用して、蓄電池を購入することを検討中。

○　冬期間の被災に備えて、自身が勤務する事業所には、カセットコンロ用ガスボンベで使用可能なストーブを 2～3 台保有している。
被災時に誰がどのようにして、事業所からご本人の自宅までストーブを運ぶかについては、検討が必要。

○　連絡手段として携帯電話の使用を継続することが必要不可欠と痛感した。
現在携帯電話用のモバイルバッテリーを自宅に 4～5 個保有し、常に満充電となるよう、心掛けている。